

ことばの歳時記

～かさかさ～

日本では、紅葉の季節になると紅葉を見物する秋の行楽、もみじ狩りに出かける人が多くいて、春の花見と同様に日本人の好む行楽のひとつでもあります。

東京の神宮外苑のいちよう並木は大正12（1923）年に造られ、現在はオシャレスポットとしてドラマなどにも登場します。秋、左右の歩道脇に植えられた146本のいちようはまるで黄金の長いアーチのようで、歩くたびに足下ではいちようの落ち葉が『かさかさ』と音をたて心地よく、並木のその向う正面には絵画館が見え、見事な構図を作り上げています。

「かさかさ」とは、「落ち葉がかさかさと鳴る」など乾いた物どうしが触れ合う音を表すのと同時に、「(冬の)寒さと(空気の)乾燥で肌がかさかさする」などとも使います。

昼夜の温度差がだんだんと大きくなり、野の草には露がおりはじめ、色付いた葉が散りはじめると、秋も終わりに近づきます。

冬服の準備、暖房の準備などなど、そろそろ冬支度の季節ですね。

词语的岁时记

～沙沙地～

在日本 每到红叶季节、有很多出去观赏红叶进行秋游的人。外出观赏红叶的人员很多、和春天的观赏樱花一样是日本人喜欢的游玩内容之一。

东京的神宫外苑庭园的银杏街道树是大正12(1923)年植树的，现在作为一个时尚景点、也经常出现在电视剧等里边。秋天，在人行道左右路旁栽植的146棵银杏树简直就像黄金的长拱形结构一样，每走一步、脚下银杏的落叶就会发出『沙沙地』的声音、令人觉得十分惬意、从街道树面向的正对面可以看到绘画馆，形成了漂亮的一幅画面。

所谓「沙沙地」，也表示「落叶沙沙地响」等、干的东西之间互相接触发出的声音。同时，「(冬天的)寒冷和(空气的)干燥、使得皮肤干巴巴的」等场合使用。

昼夜的温差渐渐变大，野草开始挂露、当变了色的叶子开始散落，表明秋天也接近尾声。

准备冬装，准备暖气等等，就要到做过冬准备的季节。